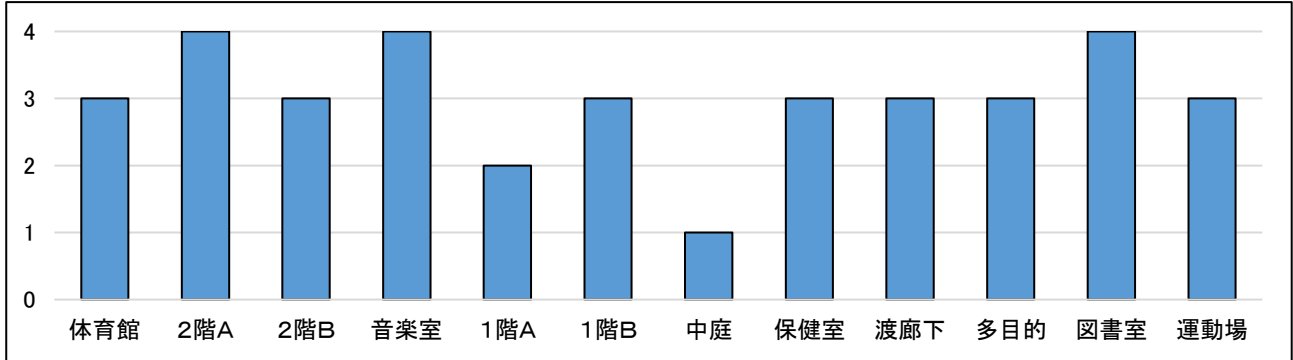


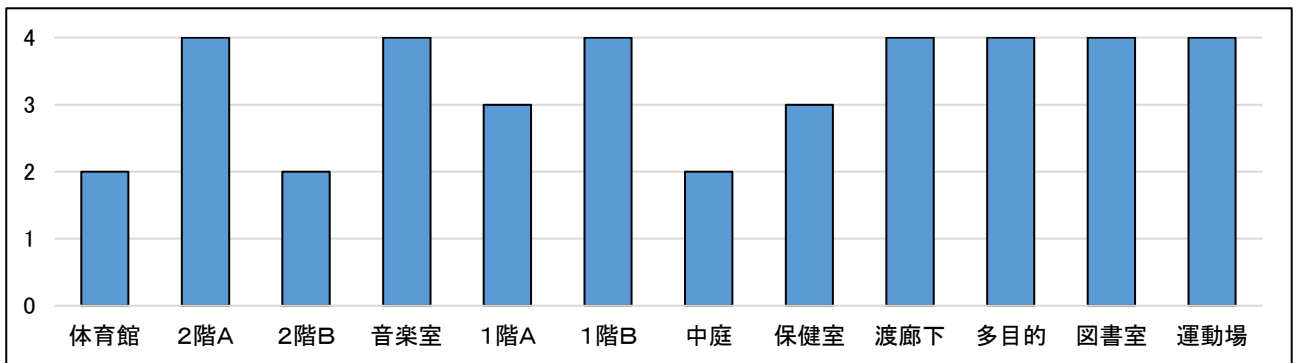
# I 児童の動きを職員が評価

4できていた 3まあまあ 2あまり 1できていなかった 0評価なし(評価不可)

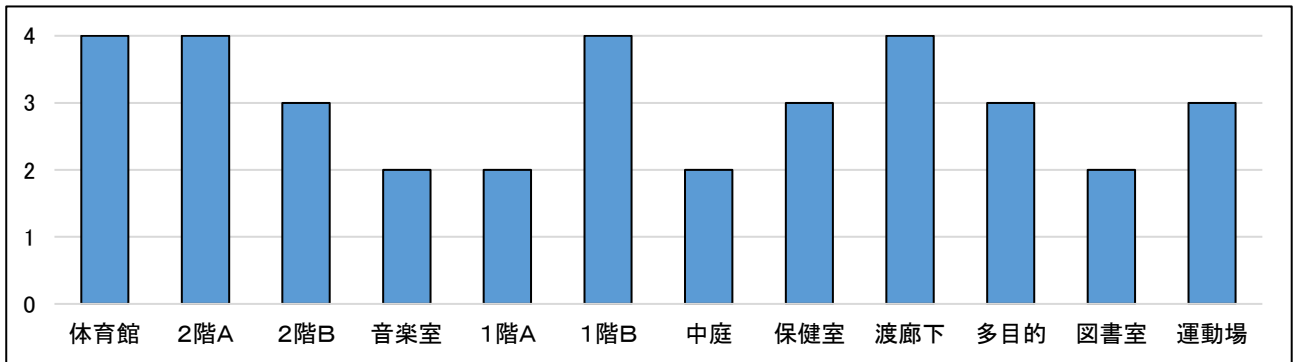
## 1 被災想定場所にあった安全な体制で身を守ることができていた。



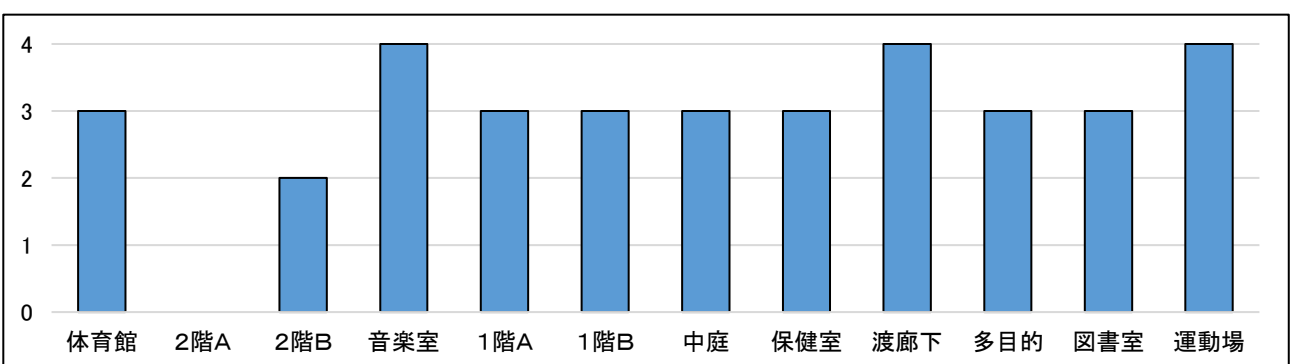
## 2 揺れている間は、動かずに待つことができた。



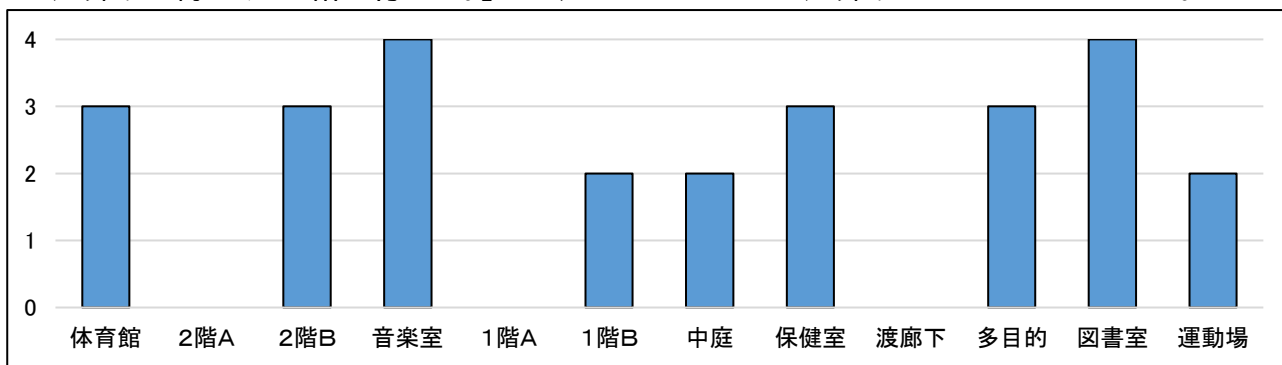
## 3 放送をよく聞き、避難することができていた。



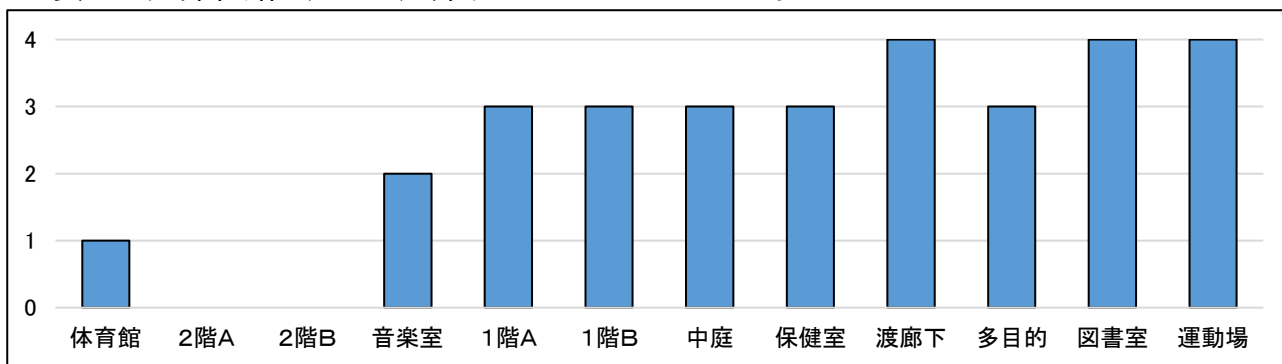
## 4 「お(押さない)・か(かけない)・し(しゃべらない)・も(戻らない)」を守って避難することができていた。(ここでの「しゃべらない」は、避難に必要な話のことをさす)



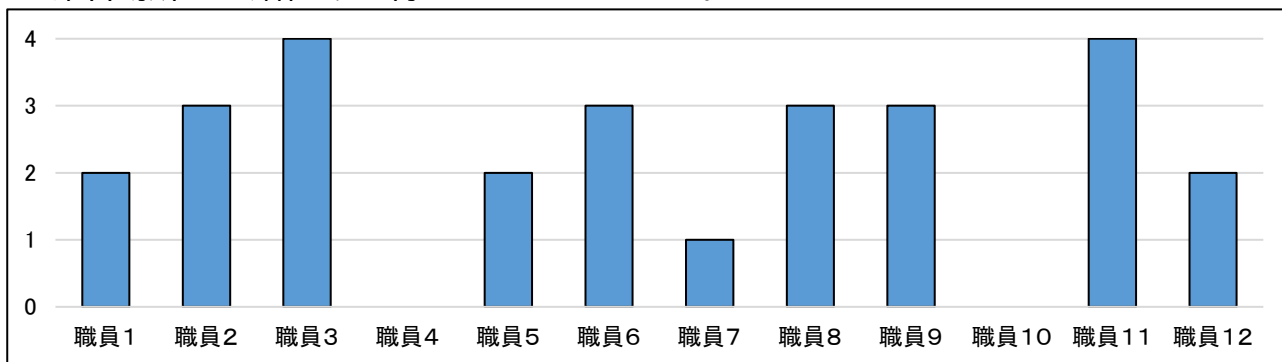
5 避難する際に、「一緒に行こう。」など声かけをしながら避難することができていた。



6 安全な避難経路を通して避難することができていた。



7 集合場所では、話さずに待つことができていた。



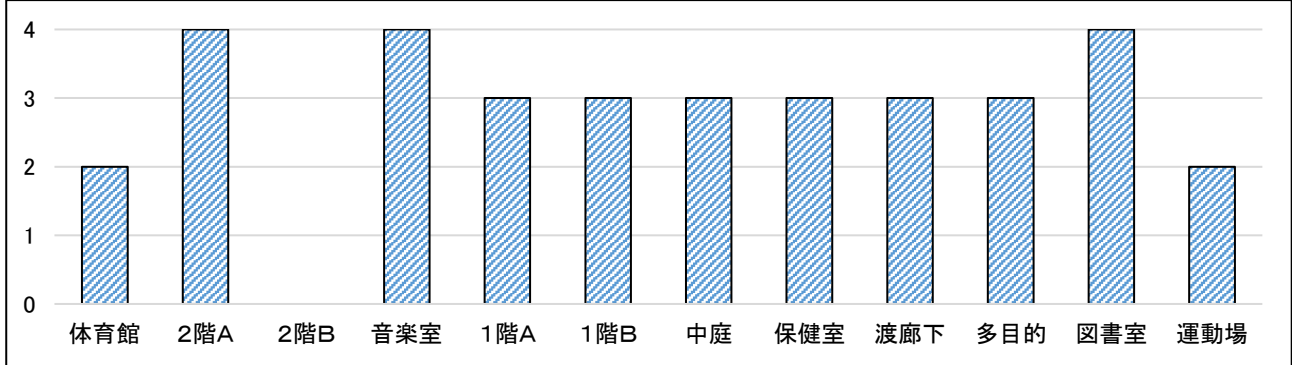
【気付き】

- 一斉の避難ではなかったが、指定された集合場所に集まることができた。
- △ 静かに集合できるように指導する必要がある。
- △ 地震発生（放送を流した）後、すぐに安全なポーズ（ダンゴムシ）をとることができていなかった。迷っている児童もいた。
  - ・ 昨年は「何時」（時間帯）に実施するのかを伝えずに実施、今回は「何日」（実施日）と「何時」（時間帯）を伝えずに実施し実体験に近い内容にしてきた。次年度は、避難通路に障害物や損壊箇所等を設置するなど、児童のとっさの判断力を評価する内容も組み込んでいきたい。
  - ・ 休み時間に児童が放送を聞いて避難できるかやってみてはどうか。（ねらい：児童の判断力と行動力をたかめるため。）

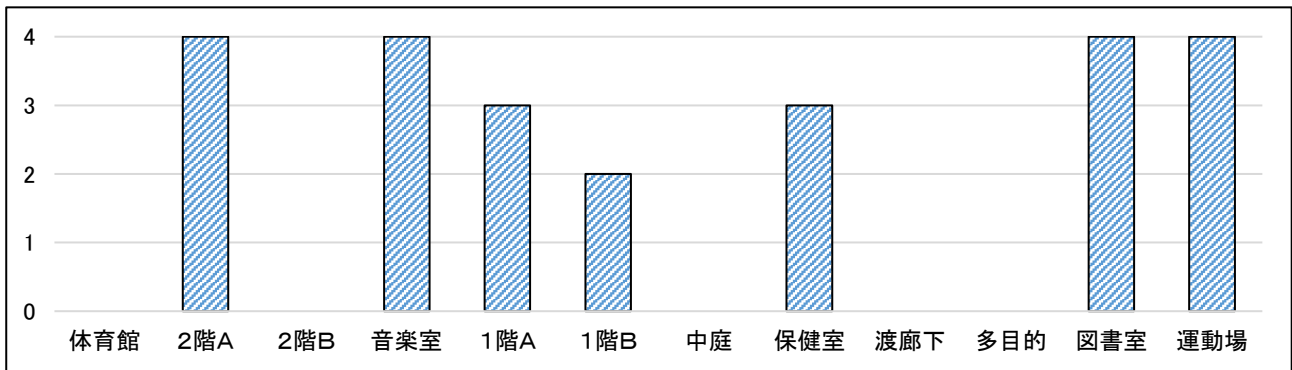
## Ⅱ 職員の自己評価

4できていた 3まあまあ 2あまり 1できていなかった 0評価なし(評価不可)

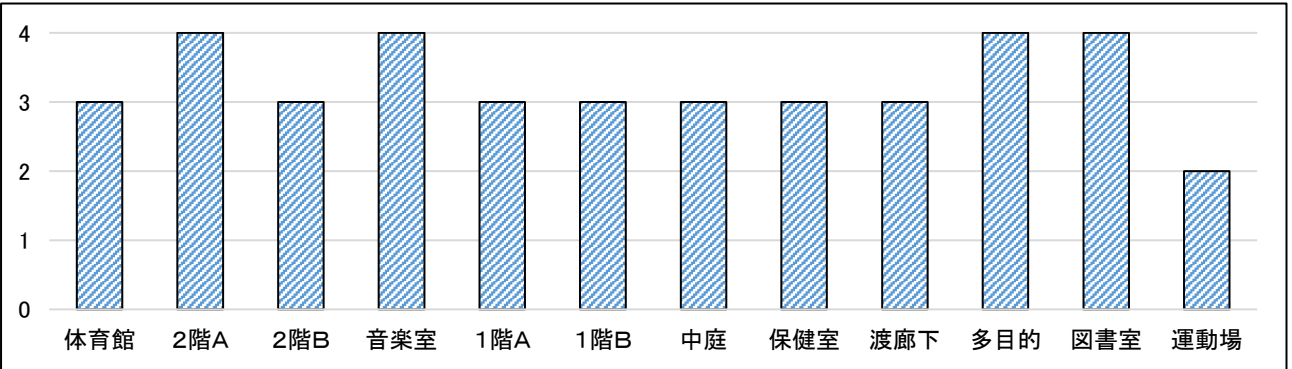
### 1 被災想定場所にあった安全な体制で身を守ることができた。



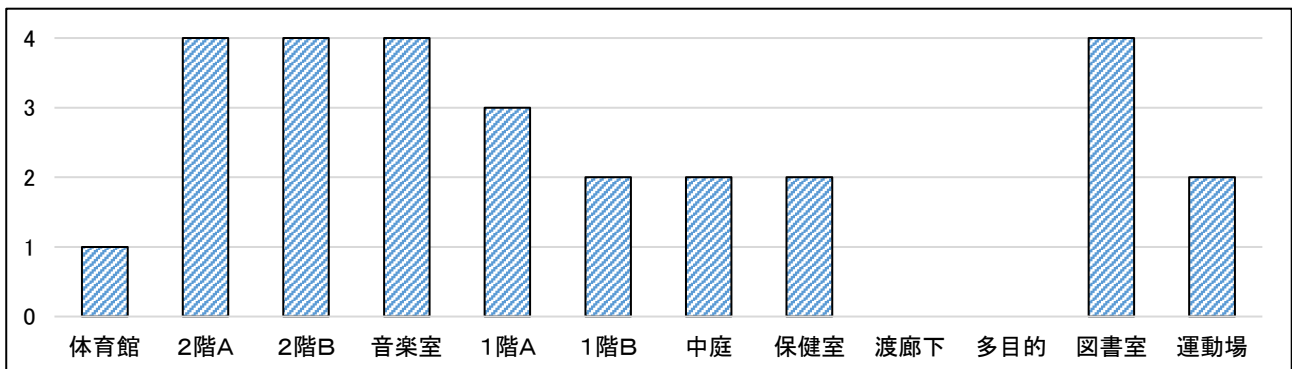
### 2 揺れの後、児童の避難経路を確保することができた。



### 3 逃げ遅れの児童がいないか確認しながら誘導することができた。



### 4 他職員と声かけをしながら、避難誘導をすることができた。



- 階段掃除やトイレ掃除の児童がいなかった。揺れなかったから自分たちで判断して動いたのだと思う。
- 職員は、先に児童を外に出して確認してからの避難になるので、児童より避難が遅れる。避難場所へ自分たちだけで並ぶ力も付けたい。
- 階段にいる場合は、揺れが収まるまで手すりなどをしっかり握って待つ方がよい。
- 揺れはじめにすぐには動けずに職員の指示があつて机にもぐった。
- 避難するタイミングが分からずに早く避難しようとしてしまった。
- 普段から学校内(天井、壁、ひび割れ等)の確認をしっかり行うべきだと感じた。実際の地震では想定外のことが起こると思う。
- トイレはドアを開けて避難経路を確保したが、トイレの中で頭を守るか、トイレから出るかは、そのときの揺れの大きさでも変わると感じた。
- すぐに外に出られる場所だったので、外に出てダンゴムシのポーズをさせた。揺れを感じた場所でそのポーズをとった方がよかったか迷った。
- そのときにならないと分からないことが多くあり、訓練の中で全て予測して動くことは難しいと感じた。「どう対応した方がいいのか」職員自身が考える機会になって有意義な訓練になった。
- 最初の地震放送があつた瞬間は、児童の戸惑いがみられたが、頭部を守るなどの対策は自分たちでできていた。
- 放送が流れるのを待つ訓練をしたら、万が一、放送機器が壊れて使えない状況になったときに、避難のタイミングを失ってしまう。近くの大人の指示を仰ぐか、最悪、児童の自己判断で避難を始めてもいいと感じた。

